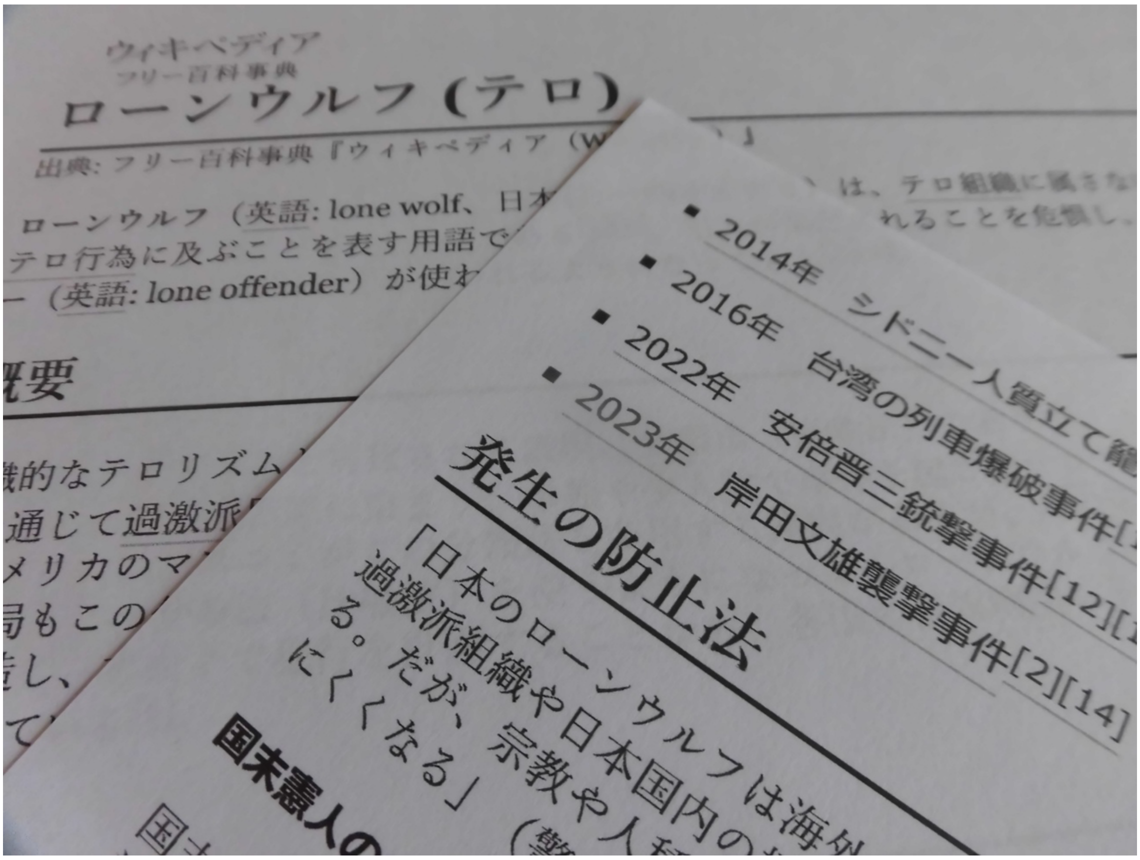
第 96 回　犯罪者はヒーローか？

ＩＴ生

安倍事件１年の各紙の報道をみて、ひっくり返りそうになった。
犯人を「ローンオフェンダー」とかいってまるでヒーロー扱いである。

見出しに「計算しつくした冷徹な犯行」ともある。冷徹な計算する人物が犯罪を犯すのだろうか。正常な精神状態の人間は犯罪者にはならないだろう。
本質は、人や社会を巻き込む「拡大自殺者」にしかすぎない。

政治家がこぞっていう「民主主義への挑戦」などとは程遠い。お笑い種である。
問うべきは「ロストディフェンダー」だろう。安倍事件では誰か一人が後ろを警戒しておけば、なかった話。にもかかわらず治安維持にかかわる専門職が一度ならず二度までも政府の要人を守れず、猟銃をもった素人にいとも簡単に射殺される。



マスメディアが安倍事件の解説に利用した「ローンウルフ」「ローンオフェンダー」という言葉が事件の本質とは程遠いところではん濫している

近年、交番で警察官が襲われる事件が立て続けに起き、防御体制が強化されたはずではなかったか。そんな事態が改善される気配すらないのはなぜなんだろうか。と、といかけてみるが、さして明確な理由はなさそうだ。ただ、そこには疲弊した巨大組織は漫然と存在しているだけなのだろう。

先日、感染症対策と自然災害対策の強化を政府に求める国民運動体を取材した。対策を強化するには国上げての対応が必要で、そのことを憲法に明記すべきだ、すなわち、憲法を改正して緊急事態条項を欧米なみに整備すべきだと主張している。

確かに現在、憲法改正の動きはあるが、どうも聞いていると、緊急事態の対象とすべき事項は自然災害がほとんどない欧米が戦争状態が起きたことを想定し、それにならっているのだという。つまり、喫緊の課題の自然災害や感染症対策は安全保障の対象になっていないというのだ。

本当に日本というのは摩訶不思議な国家だといえる。少なくとも、そう思って、国民自らが自分で身を守る準備だけはしておく必要があるのだろう。

（令和５年７月）